

会議録

【4 協議 (1)「南九州市過疎地域持続的発展計画(案)」について】

資料2・南九州市過疎地域持続的発展計画策定方針

資料3・南九州市過疎地域持続的発展計画(案)

1. 基本的事項について

※質問・意見は特になし

2. 移住・定住・地域間交流の促進, 人材育成

大迫委員

今、空き家対策の話が出ましたが、前々から空き家対策はしているかと思うんですが、昨日も「(空き家が)多いよね、景観が悪いよね」という話をしたところでした。すでに何か対策をされていますか。

企画課長

まず空き家につきましては、まだ利用できる空き家、それからもう厳しいだろうという空き家がございます。まだ利用できる空き家につきましては、空き家バンク制度に登録をしていただいて、借りてほしい方と借りたい方をマッチングする取組を行っております。また、空き家を貸したい場合は、その中の家財道具を整理するための補助制度もございます。危険な家屋については、解体に係る支援制度もございます。

大迫委員

どれぐらい進んでいるのかを聞きたいです。

企画課長

空き家バンクについては、平成21年から昨年度までの状況でいきますと、登録された件数が全部で181件あり、そのうち成約、借り手が見つかったものについては123件あるところでございます。

海江田会長

ありがとうございます。よろしいでしょうか。

大迫委員

進んでいるようで安心しました。

海江田会長

他にございませんか。

大隣委員

11ページの「体験学習を目的とした修学旅行の誘致や都市部からの農村漁村宿泊体験農山漁村を満喫できる体験メニューを開発し、交流者の増加を図ることが求められている」ということなんですけれども、現在このコロナ禍の中で、今後こういった対応をされて、このような取組をされていくのかお尋ねしたいのと、それから12ページの教育旅行民泊受入施設数ということで、今現在33の家庭の方がそういった取組を行っているんですけど、これを令和7年までに60戸にまで増やすというこの計算の方法というか、予想というか、私もグリーンツーリズム会員なんですけれども、なかなか体験ということが出来ない状況の中で、今後ここらへんの取組をどのように進めていかれるのかをお尋ねしたいです。

商工観光課長

グリーンツーリズム関係の部分で、実際、南九州市ツーリズム協議会というのが組織化されておりまして、教育旅行の民泊をしていただける家庭の集まった組織がございます。それが令和3年4月現在で33家庭ということで、60家庭を目標にということで、これは総合戦略の中でも目標に掲げています。南九州市ツーリズム協議会の会員の方々が毎年行政と一緒に、8月9月の二か月間を受入家庭加入促進月間と銘打って、色々な方々に勧誘をしているところがございますけれども、なかなか皆さんご高齢の方々が沢山いらっしゃるしまして、例えば、教育旅行の受入れの場合、入村式、離村式というのがあります。その会場が主に知覧の体育館のところでやっているんですけども、そこまでの送り迎えであるとか、そういった部分が大変になってきた方々が抜けたりしまして、思うように会員が増えていかない状況ではございますけれども、何分にも声掛け運動で会員を増やしていくような活動をする以外無いのではと思っております。また、広報紙等でも呼びかけはしているんですけども、そういった形で活動はしているところなんです。それから、コロナ禍の中で、教育旅行の民泊でいいますと、一昨年は674人を受け入れたんですが、令和2年度は0人でした。今年度も今のところ0人になっておりますが、県内の修学旅行生などは戻りつつありますので、また民泊の活動といえますか、そういったものが増えていけば、会員のモチベーションも上がっていくのではないかと考えているところです。それから、ツーリズムといえますと、農村漁村に滞在して、農業漁業の体験をしてといったことになりまして、体験メニューの磨き上げであるとか、新しい体験を生み出していくとか、そういった活動もツーリズム協会と行政と一緒にやっています。

海江田会長

はい。ありがとうございます。他に皆様方からございませんか。

有水委員

先ほどの空き家対策についての回答で、家財道具の整理に対して補助があるということでしたが、具体的にどれぐらいの補助があるのでしょうか。

企画課長

空き家バンクの家財道具処分に対する補助でございますが、経費の1/2で上限を10万としております。

海江田会長

はい。ありがとうございます。他によろしゅうございますか。

青矢委員

すみません、関連したことになりましたけれども、先ほど意見がありましたように、私も青少年国内派遣事業に係わっているんですけども、なかなか人数が増やせないというところがある中で増やしていくことと、やはりコロナのこの時期でというのを考えた時に、この数値目標の項目っていうのは、コロナの時には大変厳しいものが多いと思うんですが、コロナの時でもできる県内での事業とか、そういう新しいものを取り入れて、対応するというお考えは無いのでしょうか。

企画課長

青少年国内派遣事業の関係でしょうか。

青矢委員

それも含めてですね。これは青森との交流ですよ。

海江田会長

代替案みたいなものがないかということですね。

企画課長

青少年国内派遣事業につきましては、平川市と交流連携に基づきやっております。この青少年交流とかにつきましては、姉妹都市・交流都市との関係でこれまでずっとやってきている部分がございます。そういう交流活動の中で展開をしている部分でして、コロナ禍の中ではなかなか実施することができない状況です。そのような中で、県内という話でしたが、担当部署に繋ぎまして検討したいとは思っています。

青矢委員

すみません、私の言い方が悪かったかもしれないですけども、このコロナ禍にできないであろうものに対して数値目標を設定するよりも、資質向上に向けた研修の回数を増やすとか、そのような展開はできないでしょうかということですね。

企画課長

この事業の取組の中では、そういう研修を行うとか、事業構築の中で出来ていくとは思いますが、あくまでも数値目標ということで、これはこれで設定はさせていただきたいと思っております。実際に何人と交流できたかということ、この計画の中では数値目標をしまして、事業は取り組んでいきたいと思っております。

商工観光課長

教育旅行のですね、例えば家庭のスキルアップであるとか、そういった部分は実際に取組としては、先ほど言いましたように体験メニューの磨き上げであるとか、体験提供者のスキルアップも当然研修の中に入ってますし、SDGsとか、体験を通してそれに結び付ける構成でやっていこうとか、協議会と一緒に色々子供たちにモニターをして試しながら取り組んでいます。アフターコロナに向けた取組という形で、会員の資質向上に取り組んでいるところです。

青矢委員

はい。私もちょっと考えてまいります。

海江田会長

では、よろしいでしょうか。

3. 産業の振興

南委員

14 ページの一番下に、人が少なくなる中で多様な担い手づくりを推進していくというようなどころがあるんですけども、多様な担い手づくりというのは、例えば、高齢者とか、女性だとか、障がいをお持ちの方とか、生活するうえで困難を抱えている方とか、そういったとこまでを含めてなのかなと思っているんですけども、農福連携だとか多様な人材それぞれが生き生きするような、今のSDGsの取組ではないですけども、誰一人取り残さないことを意識した事業とかをお考えはございませんでしょうか。

農政課長

多様な担い手づくりを推進していくということで、現状・問題点でもあるとおり、少子高齢化で相対的に農業の従事者数が減っているということで、そのことに対して、当然、労働力も減少していくので、維持していくためには何か補完をしていかなければならないことがあると思います。今おっしゃいました農福関係につきましては、市として

事業立ててやっているということはないんですけれども、それぞれの法人形態の農家においては、福祉事業所と連携して、雇用して、農作業の委託をお願いしているところもあります。また、全国的な傾向ですけれども、JA等が外国人を研修生として雇用して派遣をしていくという形で労働力の確保をやっていきます。あと、個人の農家が減っていくのもあって、大型の法人が年々増えてきています。当然、そこに入ってくる従業員等も就職ではないですけれども農業をやっていく。そういった部分においても、色々な農業への携わり方もあるということで、そういった色々な従事者への対応にも取り組んでいかなければならないという思いがあります。そして、冒頭言いましたとおり、こういったものに対して何か事業の考えがあるかという意見もあったところですが、市の単独として事業を組んでいるところではないですけれども、国とか県の補助事業を使って、新たに農業に参入していただけるよう支援をする、そういった事業は本市として積極的に取り組んでいるところであります。

南委員

取り組んでいらっしゃると思うんですけれども、計画の中にどのように入れられるのかなというところの確認でした。

農政課長

市独自ですというより、国や県の補助事業をうまく使いながらやっていきます。

海江田会長

はい。ありがとうございます。他はよろしいでしょうか。

有水委員

17 ページの観光及びレクリエーションの①のところ、知覧特攻平和会館のさらなる誘致活動を推進すると書いてあるんですが、今はコロナ禍でちょっと少ないですけれども、私が見る限りでは、平和会館に行かれる方、ものすごいバスが毎日のように止まっていたと思います。ただ残念なことに、沢山入っていくんですけれども、そのまま素通りでさっさとバスに乗って次の指宿の方に行くというのが現状で、あの客をどうにか受け止めて、例えば基幹産業でありますお茶とかサツマイモとか仏壇とか、そういうテーマの会館をつくって作業を見せるとか、そういう工夫をされて、ここにはこういうものがあるんだというものをしたら、更に増えるんじゃないかと思ったりするところですが、そういったお考えはないでしょうか。お願いいたします。

商工観光課長

おっしゃるとおり知覧特攻平和会館が集客の数で言えば一番多く、そこに来た方々をどうやって市内に周遊させるかは観光の方で取り組まなければならないと思っております。具体的に言いますと、例えば、平和会館に10万人のお客様が来ます、ですが武家屋敷には4万人しか来ません。武家屋敷までの導線をつくるために、今回、レンタサイクル事業といったような形で自転車で移動させようじゃないかと、電動アシスト自転車と言うんですけれども、これを事業展開しまして、その間にはお茶のおもてなしをする店舗を探しながら、そこに行けばペットボトルでお茶が貰えるとか、そういった取組ができないかということで実証はしております。それに加えて、颯娃の番所鼻公園とか川辺の岩屋公園とかにサイクルポートを作りまして、レンタサイクル事業として展開しているとしております。それから、もう一つは、お土産とか観光消費の部分については、実際、南九州市は通過型の観光、宿泊は鹿児島市や指宿市があるわけですから、そこと宿泊を競い合ってもどうしようもない部分がございますので、やはり食、それからお土

産の部分でどうにか観光消費を上げていきたいということで、南九州市の名物を作ろうじゃないかという取組も検討しております。色々事業を実施している部分もありますが、稼げる観光に着目しながら取り組んでおります。

海江田会長

はい。それでは、よろしいでしょうか。

4. 地域における情報化

※質問・意見は特になし

海江田会長

是非、達成していただきたいと思います。子どもたちもコロナ禍におきまして、タブレットを一人一台もらっておりますが、ブロードバンド化されていないと使えない状況ですので、そういったところでも推進していただきたいですね。また状況を見据えながら、南九州市には頑張っていただきたいですね。

5. 交通施設の整備，交通手段の確保

※質問・意見は特になし

海江田会長

意外といったら失礼なんですけど、子どもは車を使うんですが、高校生は、ひまわりバスの時刻表などをよく知っているんですよ。今も高校生は移動手段に使っているんですよ。もちろん、ご高齢の方々や運転免許がないの方々等にも活用していただきたいですし、ますます交通の充実を図っていただきたいと思います。

6. 生活環境の整備

南委員

すみません、確認です。新庁舎との関係性とかは、特に入れないですか。マスタープランとの関係性もあると思うんですけども。

市民生活課長

新庁舎の建設につきましては、防災施設も兼ねた施設ということで計画をしているところです。その他は、新庁舎に関する部分として、別に定めることになるかと思っておりますので、ここでは敢えて新庁舎に関する部分は入れないということにしております。

池畑委員

環境保全のところ、公共施設への新エネルギーの導入となっているんですけども、どういったものがあるんでしょうか。

市民生活課長

環境保全の再生可能エネルギー等につきましては、この計画で 31 ページの下の方に、基準値が 1、目標値が 12 ということで、今、小学校の方に小さなものですが再生可能エネルギーの施設を作っております。非常に子どもたちの勉強になるということで、もっと広めていこうと考えております。あと、新庁舎建設等につきましても、できる限り再生可能エネルギーを導入した施設にしていきたいと考えているところでございます。

池畑委員

太陽光を導入するということですか。

市民生活課長

そういうことです。

7. 子育て環境の確保、高齢者等の保健及び福祉の向上及び増進

有水委員

高齢者保健、福祉のところ、市民の憩いの場について、穎娃と知覧には高齢者福祉設備がありますが、川辺には無いところです。川辺にそういった施設を作る計画は無いでしょうか。

福祉課長

高齢者福祉センターのことでよろしいでしょうか。確かに穎娃地域と知覧地域にはございます。川辺地域には、かつてロマンセンターというものがございましたけれども、現在は保健センターの方に転用がされておまして、現在の老人福祉センターという形では川辺地域にはございません。今後の計画については、今のところございません。

有水委員

今、保健センターが週に1日だけ空いているところなんです、そこが良い設備であるから勿体ないとか、併用して福祉センターのようなことができないのか、そういう計画は無いでしょうか。

福祉課長

保健センターについては、相談などを含めて週に2回、そして健診については随時行っているところで、建物としては利用しています。ただし、高齢者の方々を受け入れるという形では、今のところ無いですね。

海江田会長

高齢者のための事業も取り入れていただけたらと思いますね。検討ということによろしいでしょうか。

8. 医療の確保

※質問・意見は特になし

9. 教育の振興

海江田会長

42 ページの目標値ですけれども、授業に積極的にICT活用できる教員数をパーセントで弾くというのがピンとこないんですけれども、どういう基準で弾き出すのか、数値の設定した経緯等を教えていただけないでしょうか。

教育総務課長

今年からGIGAスクール構想に則り、児童生徒一人一人に一台ずつタブレットが支給されているところでございます。現在、タブレット端末を使うにあたっては、教員の専門的な知識が不足しているということから、ICT支援員によるサポート体制を構築しております。この40%という数値がどこから出ているのか、はっきりは分かりませんが、ある程度の技能を教員が持つようにということで、令和7年度に向けて徐々に体制を作っていこうということだと私は認識しております。

長野委員

この数値の弾き出しは、おそらくですけど、ICTを使用できる自分の状況はどうですかという形で自己評価を毎年させるんです。それを、学校教育課の方で集約するな

り、県にも報告するはずです。それで、この 17%というのは、これが非常に難しいところで、自己評価なのでブレがあるんですね。例えば、自分の中でも本当に完璧に誰からどう言われてもちゃんと出来る人は、4段階で4を付けられるでしょうけど、そうでもないなと思ったら、控えめに2を付ける方もいるでしょう。実を言うと、これは若干のブレがあるのではと疑問はあります。ただ、ICTを活用できる教員を増やさなければならぬということはよく理解ができて、これは学校としても取り組まなければならないですし、校長会としても一つの大きな問題だろうと思います。資料の中に、議長さんもおっしゃられましたけれども、光とかそういった感じのところですね、これがもう少し設定が上手くいったら良いかなという面と、ただそれだけでは、学校の教員の資質を高めないことには、いくら周りだけ作ったところで子どもたちへは還元できないなという両面があるなと感じるところでございます。

海江田会長

はい。ありがとうございます。よろしいでしょうか。

10. 集落の整備

※質問・意見は特になし

11. 地域文化の振興等

※質問・意見は特になし

12. 再生可能エネルギーの利用の推進

※質問・意見は特になし

13. その他地域の持続的発展に関し必要な事項

長野委員

私は仕事柄、転勤族なので、引っ越しを10回ぐらいしております。あらゆる所を経験した中で、南九州市は正直すごく住みやすいです。ですから、あえて申し上げるべきでは無いのかもしれませんが、今回、市の計らいもあって本校は24箇所が洋式トイレになります。そして、蛇口とかもプッシュ式になったり、かなりのお金がかかっていると思います。今のままでも使えるけれども、あえて洋式にする。果たして何故なんだろうと考えた時に、子どもたちは、家に帰ったらほとんどが洋式なんですね。だから、和式で経験をしていない子が沢山いて、ですから、和式に抵抗がある子がいたのは事実です。色んな意味でご配慮をいただいて、今度の11月あたりから半年ぐらいかけて工事を入れていただくことになりました。何を申し上げたいかと言いますと、色んなところは非常に綺麗なんですが、もし、観光地とかのトイレが、古かったり汚かったりとなると、そこに足を運ぶとなると気が重いのかなと、そういった意味では足元からもう一回見ていただいて、汚かったり壊れていたり、ここは洋式化した方がとか、そういったものがあつたら、是非していただければ有難いかなと思います。ただ、先ほど申し上げたとおり、非常に良くしていただいている市ではないかと本当に思っております。

海江田会長

外から見た南九州市ということで、中に居る者では見えない部分もあるのかなと思います。他にございませんか。

南委員

お願いにもなりますが、48 ページの男女共同参画のところでございます。数値目標として、審議会等の女性登用率を40%にするとなっております。その40%に近づけるような対策がここに書かれているんですけども、なかなか成り手がいないような状況で、審議会で意見が言えるような女性の育成を含めてご検討いただきたいと思います。そもそも数があればそれで良いではなくて、実際に意見を言える委員が必要で、それに向けて40%にさせていただくということをお願いします。

海江田会長

人選に関して、そうですね。各団体の長にお願いすることもあるんですが、各団体より女性をお願いしますとか、そういう形での依頼もできるのかなと思いますね。24.6%と低いので、数値目標である40%をお願いしたいと思います。

全体を通して

青矢委員

過疎法が期限を迎えて新しい法律になったということで、計画を色々言っていただきましたが、これは、第2次南九州市総合計画の中身と何処が変わったのでしょうか。今度の新しい法律は、過疎対策の目標が新しく5項目付け加えられたということですので、この5項目を抜きにして何処が変わったのかなと思いました。最初の説明でありましたように、ずっと過疎の一途を辿っているわけですよ。ということは、どこかで考えないといけないし、こういう法律が出て、過疎地域の要件が当てはまるから事業をするというのではなくて、本当に過疎の一途を止めるような気持ちで何か新しいものがなければならぬと思ったところですから、そこをお尋ねしたいと思います。

企画課長

この過疎計画に記載する計画事業と総合計画の部分についてのことだと思いますが、市の総合計画が一番上位の計画になります。その中の事業につきまして、過疎地域の特別措置法に基づく色々な支援措置がございます。その支援措置を受けるためには、過疎計画の中に事業を盛り込まないといけないことになっておりますので、総合計画の中の事業をこの計画に再度盛り込んでおります。ですので、総合計画に無いものがここにあるということにはならないところでございます。

青矢委員

再度だから新たなものはここに入っていないということでしょうか。

企画課長

本日の計画にもありましたけれども、事業内容のところでは様々な個別事業がございますが、これらの事業は総合計画の実施計画にございます。実施計画の中において、過疎法の措置が必要な事業を過疎計画に入れ込む形としておりますので、総合計画に無いものが載ってくるということは無いところです。しかし、今後、新たに事業を展開しようとなった時には、この計画を改正するという手段があるので、そういう措置をやっていくという形になります。

青矢委員

やはり過疎の一途というのは、皆さん危機感をもっていらっしゃると思いますし、若い人たちが居てほしいなという想いもあると思います。重複しているということをおっしゃられたので、それはそれで今からですね、今を見つつですよ、色々な目標とか計画とかを

立てていただきたいなと全体を通して感じたわけです。そして、ここに人材の育成の確保及び育成とか人づくりとか書いてありますので、この13の項目の中にも、人づくりが大事なものがありますよね。例えば、先ほど、青少年育成のことも申し上げましたけれども、子育て環境であったり、高齢者の福祉に関してであったり、集落の在り方であったり、教育に関してであったりですね。こうして、人づくりが大事だと感じるのは、コロナ禍で子ども会活動がなかなか思うように出来なかった時に、保護者の中から「活動が無くて良かった」というような意見も聞こえてくるわけです。保護者は楽でしょうけど、子どもたちが色々な体験をする機会を無くしていくというのは、将来的に子どもたちにとって色々な人と触れ合うことが狭まっていくのであれば、保護者の考えというか、人づくりは本当に大事だと思っております。細かいことですが、例えば、私は子どもに平和の案内だけはしているんですが、今見たら、戦跡ガイドの案内を増やすと書いてありました。ですが、具体的な例の中で、ガイドを育成するというのは無かったんですね。もう少し、人の育成というものを考えるところに計画を充てて欲しいと、やはり人が将来的に南九州市をつくっていくんだらうなと思っております。

企画課長

私もその通りだと思っております。地域づくりを進めていくためには、その根底にあるのは人だと思っております。人材育成、人づくりはとても重要なことですので、本日ここに載せている事業の中には、そういうものを含めたものもございます。また、ここに載っていないくても、それは当然やっていかなければならないことですので、今後も引き続き取り組んで参りたいと思います。

大迫委員

男女共同参画のことでお話しをしたいのですが、私は、こういう協議に色々出ているんですが、最初に出た時は女性が一人でした。でも、ここにきて、女性が増えてます。ですので、今後も増やしていただければ有難いのかなと思います。細かいところが女性の方が気付くのかと思うんです。協議会にはせめて1/3、半分とは言いませんので、是非そうしていただければ南九州市もより良くなるのかなと思います。